

第440回鉄鋼流通問題懇談会

2017年4月27日(木) 14:30

茅場町「鉄鋼会館811」

議 題

△鉄流懇新会長ご紹介 橋本直政氏 (JFEスチール(株)常務執行役員)

1. 配布資料説明 (全鉄連)

2. 全鉄連情勢報告

(1) 地区の状況

○東京、大阪、愛知、石川、新潟地区概況報告

(2) その他地区の概況

○鉄流懇4月例会で発表の各地区景況などアンケート結果

(3) 総括：阪上全鉄連会長

3. 意見交換

4. 経済産業省挨拶

5. 鉄流懇会長挨拶

6. その他

○次回以降会議予定

2018年7月26日(水) 14:30～

於：茅場町「鉄鋼会館」

鉄鋼流通問題懇談会 品種別動向について（2017年 4月）

発表項目	発表者	鋼管	薄板	厚板	棒鋼・形鋼
		伊藤忠丸紅鉄鋼	岡谷鋼機	JFE商事	エムエム建材
1. 需給動向（景況感）		国内鋼管需要は関東地区を中心に東京五輪・パラリンピック関連の他、ホテルや商業施設、郊外の物流倉庫案件を中心に増加が期待されているものの、足元では大きく伸びるまでには至っていない状況。一方、海外のエネルギー分野向け鋼管需要は原油安を背景とした需要停滞は底を打ちつつあるが、市場が活性化するにはもう少し時間を要する可能性が高い状況となっている。市況については昨年3Q以降の各メーカーの大幅な値上げ要求を受けて上昇中で、今後も引続きの市況上昇を見込んでいる。	2017年2月末の薄板三品の国内在庫は現月末比△1万トンの387.8万トンとなり、6ヶ月連続で400万トン割れとなった。3月は自動車を中心に活動水準が高く、荷動きも堅調に推移したことから、在庫調整トレンドは続き、適正圏内とされる400万トン以下の水準が続くものと思われる。例年4月以降は、自動車向けが季節段差で需要が減少、建築向けは踊り場となり、総じて需要は減少傾向となるが、各高炉メーカーの設備工事等による供給制約が生じるため、需給は引き続きタイトな状況が続くと予想される。	2月末の厚板在庫は382千トんで前月比12千トンの減。3か月ぶりに前月実績を下回った。受入減、出荷増により在庫量は減少したが、在庫率は231.2%で、適正とされる200%以下には至っていない。シャーマ業界の国内需要に盛り上がりは見られず、建築物件の出件も期待されてはいたが、実際は物件のズレ込みが重なり、当初の予想に反して低迷状態が続いている。その状況下、鉄鋼原料価格の上昇と共に母材価格の値上げは実行されている。今後は国内需要が本格化しない中で、再販価格の値上げを実行していくという厳しい局面が続くと見られる。	棒鋼 足元の引合には盛上りを欠くが、年末前後より見込まれる首都圏の再開発案件やオリンピック関連需要に期待したい。 形鋼 H形鋼に関し、本年1-3月のときわ会ベース全国在庫量は79千ト/月と、前期比▲13%なるも前年同期比では+1%との水準。一方、3月末市中在庫はときわ会全国ベース201千トと4ヶ月連続で増加しているが、過剰感はさほど無く4月以降の減少も予想される状況。
2. 需要産業動向		自動車分野は16年4月から17年2月までの乗用車生産台数累計（軽自動車含む）は前年同期比+3.1%の722.9万台と好調に推移している。東南アジア向け輸出が好調な上、株高等の資産効果で国内の乗用車販売が後押ししている。建築分野では17年2月の住宅着工戸数が70,912戸で前年同月比△2.6%となり、前年同月比指標では8ヶ月ぶりの減少となったが、17年2月の全建築物の着工床面積は前年同月比+1.1%と7ヶ月連続の増加となっており堅調推移している。建機分野は16年4月から17年2月までの累計出荷金額実績では前年同期比で△4.1%ながら足元の4ヶ月は国内、輸出共に堅調に推移している。特に外需では中国や東南アジアが牽引している。造船分野は17年3月の契約実績は154万総トンと低水準継続ながら、ここへきて持ち直しの兆しも見えつつある。2020年に始まる硫酸酸化物などの排出規制強化を踏まえ、2018年頃からの新造船需要に期待している。	3月の自動車国内販売（輸入車除く）は普通車、小型車、軽自動車すべても対前年比プラスとなり、全体では3ヶ月連続のプラスとなった。16年度計では、国内販売（輸入車除く）が全体で対前年度比2.6%増の473万台と3年振りのプラスとなった。3月の民生用電気機器の国内出荷金額は前年同月比106%の2,181億円となり7ヶ月連続のプラスとなった。電気冷蔵庫は2ヶ月ぶりに前年同月比でマイナスとなったが、ルームエアコンは同104.6%と3ヶ月連続、電気洗濯機は同114.4%と9ヶ月連続のプラスとなった。2016年度は夏の天候不順等のマイナス要因があったものの、省エネ製品・高付加価値機種への買い替え需要に支えられ、前年度比103.6%と2年連続のプラスとなった。2月の新設住宅着工戸数は持家、貸家ともに前年同月比でプラスとなったが、分譲が3ヶ月ぶりに減少し、全体では2.6%減の7.1万戸と8ヶ月ぶりの減少となった。年率換算着工戸数は94万戸と、2ヶ月ぶりに100万戸を下回った。非住宅着工床面積は店舗・倉庫は減少した一方で、事務所・工場向けが増加し、前年同月比8.1%増の434万㎡と4ヶ月連続の増加となっている。年率換算着工床面積は5,528万㎡と5,000万㎡を4ヶ月連続で上回った。	造船の2月末手持工数量は前月末比1.2%減の2,854万G/Tで2ヶ月連続で減少した。輸出船契約量は66万G/Tで前年同月比で68.1%増と2ヶ月連続で増加となったが、前年が低水準だったため、本格的な回復にはまだ至っていない。建設機械の2月出荷金額は国内は前年同月比5.3%増の802億円、輸出は14.4%増の1,250億円、総合計は10.7%増の2,052億円で総合計では4ヶ月連続の増加となった。今夏の排ガス規制前の駆込みもあり、足元は比較的堅調に推移している。産業機械の2月受注金額は国内は2,282億円の前年同月比40.0%減、輸出は939億円と21.9%増となったが、総合計では3,221億円と29.6%減となり、全般的には依然盛上るまでには至っていない。建築分野では設計の見直しや人手不足による進捗遅延等が続いており、現段階では今夏以降より出件が本格化されるとみられている。	棒鋼 不動産経済研究所による首都圏マンション発売戸数に関し、2016年度は36千戸と前年度比▲4%の水準にて推移。今年度は2016年度比微増が見込まれる。 形鋼 土木に関し、今年度の需要水準は2016年度と同等レベルを見込むが、需要の本格化は夏場以降の見通し。建築に関し、2016年度の鉄骨需要量(推定)は510~520万ト/レベルと前年度比横這から微増にて推移の見通しにて、今年度も同等以上の需要水準が見込まれ、本年夏場以降FABの活動水準の本格化が予想される。
3. 輸出入動向		2017年2月 鋼管輸出量： 継目無鋼管 2.4万t（前月比+33%） 溶接炭素鋼管 3.4万t（前月比+115%） 2017年2月 鋼管輸入量： 継目無鋼管 0.1万t（前月比△30%） 溶接炭素鋼管 0.9万t（前月比△45%）	2月度の普通鋼材輸入は38.5万トン(前年同月比+0.7%)と2ヶ月連続の増加となった。薄板三品では熱延広幅が15.9万トン(同+10.3%)と4ヶ月連続、冷延広幅が7.4万トン(同+0.1%)と2ヶ月連続で増加した一方で、亜鉛メッキ鋼板が5.5万トン(同△36%)と2ヶ月ぶりに減少した。普通鋼材輸出は211.6万トン(同△4.7%)と6ヶ月連続の減少となった。薄板三品では熱延広幅が105.5万トン(同+1.8%)と2ヶ月連続、冷延広幅が20.5万トン(同+2.4%)と2ヶ月ぶり、亜鉛メッキ鋼板が26.4万トン(同+15.5%)と4ヶ月連続の増加となっている。	2月の輸入実績は54千トんで前月比5千トンの増となった。韓国からの輸入が6千トンの増となっている。 2月の輸出船積実績は160千トんで前月比1千トンの増。韓国向け減、中国向け増となった。	2016年度4-2月の小形棒鋼輸出量は27千ト/月と2015年度比▲5千ト/月、輸入量は2千ト/月と同比▲1千ト/月とのレベルで推移。 2016年度4-2月のH形鋼輸出量は21ト/月と2015年度比▲19千ト/月、輸入量は6千ト/月と同比+3千ト/月とのレベルで推移。
4. 海外市場動向		<油井管>原油価格(WTI)が落ち着きだしたことを受けて、油井管の主要消費国である米国においては、陸上リグカウント数の緩やかな上昇により需要環境は底を脱したとの期待感が高まってきている。在庫調整が進みつつある状況ではあるが、需給バランスがタイトな局面に転じるには、まだしばらく時間がかかる見通し。一方で、比較的活発であった中近東では勢いは鈍化しており、油井管の国際市況全体としては「様子見」で推移しているのが現在の状態である。 <ラインパイプ>16年の欧州大型案件を欧州ミルが受注し、17年は中東、アジアを中心に中小規模案件を日本、インド、現地ミルが追いつける情勢となっている。ホットコイル/厚板の値上がりを背景にパイプの値上げを行おうとしているが、供給面で余力有り、原板ほどに市況が上がっていない。米国市場では需要の増加が見込まれるが、一方でBuy Americanの圧力が高まっており、輸入の制限に拍車がかかる懸念有り。	中国政府は2017年の経済成長率目標について前年実績の6.7%を0.2ポイント下回る「6.5%前後、可能であればそれ以上」を掲げたが、1-3月の経済成長率は6.9%まで伸び、6期ぶりの高い水準となった。経済の安定を第一に、公共事業拡大による景気最優先の政策は続くため、構造改革の柱である過剰生産能力の削減は後回しになることが懸念される。国家統計局によると、3月の自動車生産台数は前年同月比4.8%増の270万台と伸び率がやや落ち着きを見せているものの、粗鋼生産量は同1.8%増の7,200万トンと14年5月(7,116万トン)以来、2年10ヶ月ぶりに月間過去最高を更新している。	中国市況は春需を見込んだ流通サイドが購入量を増やしたようで、市場には在庫過剰感が出てきた。結果、足元の市況は在庫調整の影響から、軟化傾向にある。	東南アジア：中長期的にはインフラ関連を中心とした建材需要は見込めるも、足元は国際スクラップ市況の調整局面も影響し建材製品市況も弱含みにて推移。中国ではインフラ投資は活発にて建材需要も堅調に推移しているが、供給過剰との構造問題の解決は道半ばの状況にて、製品・半製品の国際市況にも影響を与えている。 北米：経済全般は比較的堅調推移にて、新政権誕生によるインフラ投資計画により、今後の需要拡大が期待できる。但し、足元は丸棒におけるAD発動等、日本からの輸出商談は影響を受けている。
5. トピックス					